

平成27年度第2回みよし市総合教育会議 会議録

日 時	平成27年9月11日(金) 午前10時開会
場 所	みよし市役所 6階 601・602会議室
出 席 者	市 長：小野田 賢治 教育委員長：木戸 友二 教育委員長職務代理者：久野 元典 教育委員：古田 みどり 教育委員：藤森 猛 教育長：今瀬 良江
出 席 した 事 務 局 職 員	政策推進部長：藤根金光、教育部長：塚本直樹、教育部参事：吉澤通記、 政策推進部次長：柴田圭一、教育部次長：鈴木政美、 文化振興専門監(建設)：酒井峰孝、文化振興専門監(振興)：深谷幸広 企画政策課長：野々山清、教育行政課長：鈴木正憲、 歴史民俗資料館長：神谷浩一、学校教育課長：増岡潤一郎、 給食センター所長：久野俊人、教育行政課副主幹：吉川直希、 スポーツ課主任主査：大城智子
書 記	教育行政課副主幹：深谷正浩
傍 聴 者	2名
開 会	企画政策課長 一同ご起立ください。 【一同 礼】 ご着席ください。 ただいまより平成27年度第2回総合教育会議を開会いたします。 なお、本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の 4第6項の規定により公開としておりますので、よろしくお願ひしま す。最初に、小野田市長がごあいさつを申し上げます。
市長あいさつ	市 長 おはようございます。本日は皆様ご多用の中、平成27年度第2回み よし市総合教育会議を招集しましたところ、全員のご出席をいただき開 催できますことに、まずもってお礼を申し上げます。 また、日頃は、本市の教育行政に格別なるご支援とご指導をいただい ていることに対しまして感謝を申し上げます。 本日は、来年度の教育に関する主要施策と現在策定中の教育基本計画 について委員の皆様方の意見をお聞きできることを楽しみにしてまい りました。 皆様とできるだけ忌憚のない意見交換を行いながら、「みよしの教育」 の一層の充実を図ってまいりたいと強く思っておりますので、皆様のご 協力をお願い申し上げ、会議開催にあたってのあいさつとさせていただきます。

<p>教育委員長 あいさつ</p>	<p>企画政策課長 続きまして、木戸教育委員会委員長よりごあいさつをいただきます。 木戸委員長 おはようございます。市長の招集により、第2回目の総合教育会議が開催されるわけです。本日の会議内容は、「平成28年度の教育に関する重点施策」及び「教育に関する大綱」についての意見交換ということですので。</p> <p>15年程前だと思いますが、ヨットで有名な南波誠さんというアメリカズカップでスキッパーをされていた方の講演があり、その中で、「アメリカと日本の教育の違い」を一言で言うと、アメリカの教育は潜在的な能力を引き出すことに重点を置いているということでありました。「Education」の語源は、「導き出す・引き出す」ということだそうです。日本では「Teaching」として「教える」という意味合いが強く使われています。あまり「教える」ことにこだわるあまり、「詰め込み」一辺倒にならないよう、ある面では「導き出す・引き出す」ことに重点を置く教育も必要ではないかと感じます。</p> <p>本日は意見交換の場ですので、来年度予算編成の参考にしていただくために、教育委員の皆さんには積極的にご発言いただきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。</p>
<p>議 事</p>	<p>企画政策課長 ありがとうございます。</p> <p>ただ今から議事に入りますが、みよし市総合教育会議運営要領第4条第1項の規定により、この後の議事につきましては、小野田市長に議長をお願いいたします。</p> <p>市長 それでは、議長として議事の取り回しをさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。なお、会議録の作成につきましては、みよし市総合教育会議運営要領第7条の規定に基づき、教育行政課 深谷副主幹にお願いします。</p>
<p>議 題 1 「平成28年度の教育に関する重点施策について」</p>	<p>市長 最初に、議題1「平成28年度の教育に関する重点施策について」を議題とします。</p> <p>間もなく平成28年度の予算編成に入っていくわけですが、その前に教育委員の皆様と教育費の主要施策についての意見交換を行い、予算を編成するための参考とさせていただきたいと思っておりますので、挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。</p> <p>久野委員長職務代理者 今年、中学校の普通教室にエアコンを設置し、来年は小学校にも設置していただけると聞いています。ありがたいことではありますが、かなりの金額であり、それによって教育費予算の総額が膨らんで、教育費の経常経費予算が削減されるのではないかという不安の声を聞いたことがあります。市長は「教育は未来への投資である」とおっしゃっているので、私は心配ないと思っておりますが、そのようなことがないよう</p>

	<p>に改めてお願いします。</p> <p>木戸委員長 現在、小中学校のエアコン普及率はかなり高くなってきているのでしょうか。</p> <p>教育部長 全国ではおよそ1／3は設置済みと聞いております。愛知県内では、全公立小中学校のおよそ1／3を占める名古屋市が今年で完了し、尾張の都市部でも導入が進んでおります。西三河9市の中では、みよし市は早い方ですが、他市も今後設置を検討されるのではないかと思います。</p> <p>今年は、国が進める校舎耐震改修の最終年であり、文部科学省の補助金は耐震改修に重点的に配分されてしまうため、エアコン設置の補助金が交付されない可能性が高いということが全国的にエアコン設置が遅れる原因の一つではないかと考えております。</p> <p>藤森委員 エアコンを設置した後の管理も大事だと思います。小学生はよくいたずらをしたりするものであり、修理費が膨らまないように、例えば、児童はスイッチに触ることができないようにするなどの工夫も必要ではないかと思えます。</p> <p>古田委員 エアコンの温度設定について、冷房は現在どこでも28度が標準になっていますが、状況によってはそれでも暑いと感じることもあると思います。運動の後などに教室に全生徒が入ると、特に暑く感じると思いますので、状況によってはある程度柔軟な運用ができればと思います。</p> <p>市長 先ほども申し上げましたが、これから平成28年度の予算編成に入っていきますので、エアコンに限らず、教育費全体の中で幅広いご意見をいただければと思います。</p> <p>古田委員 総合型地域スポーツクラブについて、これから活動がどんどん大きくなり、将来的には学校の部活動の代わりになるような組織になるといいと思います。中学校の先生方のお話を聞くと、部活動が時間的な負担になっており、結果的に授業の準備時間や子どもと関わる時間が削られることになっているとのことであるので、もし総合型スポーツクラブが部活動とうまく連携し、地域で子どものスポーツをみることができる環境が整えば、先生方の多忙化解消にも繋がるのではないかと思います。</p> <p>市長 現在市内に2つあるスポーツクラブについて、きたよし地区にも開設され、3つになります。愛知県のスポーツ審議会に出席したときの資料によると、他の自治体では、みよし市より人口規模が大きいところでも1つしかないところが案外多く、国が言っている中学校区に1つというところまでは、なかなか難しいのが現状です。</p> <p>スポーツ課主任主査 総合型地域スポーツクラブについては、現段階では部活動との連携はしていませんが、一部の生徒が部活動＋αの自主練習として総合型スポーツクラブの講座に参加している実績はあります。今後、そうした希望が多くなれば、地域のクラブでありますので、クラブの同意が得られれば、できる範囲ではありますが、そうしたことも可能になるのではな</p>
--	---

いかと思います。

教育部長 総合型地域スポーツクラブは、文部科学省が提唱して、子どもからお年寄りまでクラブチームとして育てようというものであり、みよし市では「なかよしクラブ」と「さんさんスポーツクラブ」が活発に活動されております。特に「さんさんスポーツクラブ」には料理などのスポーツ以外の講座もあります。きたよし地区では、東海学園大学のご協力をいただき、大学をベースに、10月に準備委員会を設置し、来年6月にスポーツクラブを発足させる予定です。指導者や補助員も大学の協力をいただけるとのことです。最初は、地域に根ざした形でウォーキングやお年寄りの健康づくりなどからスタートしますが、どんどん広げていって、先ほど古田委員が言われたような学校の部活動との連携も図っていくようなになればいいと思います。事業費としては事務員の人件費として2,000千円程度を予定しております。

市長 私が赴任していた豊田市の中学校では、生涯スポーツのためのスポーツクラブが活動されていましたが、中学生は対象にしていませんでした。希望する子どもは引き受けていましたが、特に中学校の部活動と連携していたということはありません。スポーツクラブの活動内容等を決めるのは、そのスポーツクラブの役員の方々であり、クラブをスタートさせた時にそのように決められたのではないかと思います。

豊田市では、複数あるスポーツクラブによっては、中学校応援体制のスポーツクラブがあるとも聞いておりますが、これもスポーツクラブの中で決められたことではないかと思います。もし、中学校の部活動と連携する要素があるとすれば、将来的には部活動をスポーツクラブへ移行していくのも一つの方法だと思うし、もう一つは部活動とは離れたクラブチームを立ち上げてその中に入っていくことも考えられると思います。いずれにしても、これは市や教育委員会が決めることではなく、スポーツクラブやクラブチームが判断することであるので、見守っていきたいと考えております。

久野委員長職務代理者 古田委員から教員の多忙化解消の話が出ましたが、市長は少人数学級を拡大されるということを知っております。教員の多忙化解消を図るとともに、いじめ問題などでも、生徒との密接な対応ができるようにするためにも、ぜひ少人数学級を推進していただきたいと思います。

藤森委員 第1回総合教育会議においても、市長は少人数学級の拡大について言及され、我々教育委員もその考えには賛成をしております。35人学級の導入については段階的に進めていくとのことでありました。先日、教員の方とお話する機会がありましたが、その中でも35人学級の実現は非常に強く希望されておりました。予算の制約もあろうかとは思いますが、段階的にでも市費任用教員を増員していただき、進めていってほしいと思います。

現在、小学校1年生から3年生までと中学校1年生は35人学級となっていますが、学年が進んだ時に、35人だったクラスが急に40人になってしまうことがあります。先生方にとっても、児童生徒にとっても非常に困惑してしまうことになります。心理的負担に加え、業務的不安も増大するなど、一番困惑されるのは先生方であると思います。これから、少しずつでも市費任用教員の採用により、35人学級を拡大していくことが、先生方の切実なる希望だと思います。

木戸委員長 先ほどから、教員の多忙化及び少人数学級という学校での課題について意見交換が行われておりますが、少人数学級の目的だとか目標、さらにはその効果、メリット・デメリット、財政的な面から見た経済性などについて、あまり議論されることなく、主観的な部分で声高に叫ばれていると感じます。市費任用教員を採用していくということは、これからはますます予算が増大していくことになります。私も少人数学級の拡大については、何となく良いことだとは思っているのですが、先ほど申し上げたように、本質的な議論がされないまま進んできているような気がしてなりません。もちろん、そうした議論の結果、必要ということならばどんどん進めていけばいいと思います。皆さんはどのようにお考えでしょうか。

藤森委員 私は以前、高校で10年間教員をしていましたが、当時のクラスの人数は40人以上でした。そこから10人少ないと、教員の負担は全く違ってきます。私は、地理と政治経済を教えていました。43人のクラスもあれば、35人のクラスもあり、課題を見たりするのにそれだけ生徒数が違うと作業量が全く違うため、生徒数がそれだけ多いと、単純に2割から3割、時間にすると2時間から3時間の作業が増えてしまいます。例えば、それまで8時間で終わっていたのが、11時間使わないと1日の仕事がこなせないようになってしまうということになります。つまり、その分、生徒を直接指導する時間が少なくなったりして、課題を見ることなどに振り回されてしまいます。生徒と直接関わる時間が減ってしまい、作業の時間が増えてしまうことは、先生方にとって大きな負担になっていると思います。

今瀬教育長 子どもの立場を考えると、35人の授業と40人の授業の場合に、1時間の中で子どもの活躍の場がどれだけあるかということを考えた場合、それは一目瞭然です。文部科学省は「アクティブラーニング」として、体験や話し合いの時間を入れたりすることを推進していますが、人数が多くなれば、相対的に1人の子どもが活躍する場は減ってきますし、体験できる回数も減ってきます。クラスの人数が多いということは、ある意味切磋琢磨する中で活力があるということも言われます。ただ、1クラスが20人位になってしまうと集団としての成立は難しいですが、30人から35人位であれば、集団を維持しながら、切磋琢磨すると

もに、活躍の場も確保できる数であると考えます。やはり、子どもの授業をみてきた経験から言うと、40人学級というのは今の時代にはそぐわないのではないかと思います。

教育部参事 教員の立場で申し上げますと、藤森委員や教育長も言われましたように、30人前半と40人では教師にとっての仕事量は違いますし、授業の中で子ども1人にかける時間も違ってきます。また、子どもの保護者に対する時間も変わってきます。物理的な話をしますと、現在、ほとんどの教室は横6列で、縦に何列か並ぶ形になっております。例えば36人だと6列×6列となりますが、37人以上になると、縦に7列目をつくらないといけなくなります。今年、ある中学生保護者の方からお電話をいただきました。内容は、「2年生は240人で、40人×6クラスでしたが、3年生は241人で7クラスになりました。たまたま2年生と3年生の子どもがおり、授業参観に行っても、7列目は後ろのロッカーとの隙間がほとんどない状況であったので、1人くらいのことは何とかかならないのですか。」というものでしたが、教育委員会としては、制度を説明してご理解いただくしかありませんでした。ただ、中学生にもなると体も大きく、机自体もJIS規格で以前より大きくなっているため、やはり6列×6列の36人位までが過ごしやすいのではないかと感じます。また、総務省が言う「いじめの件数が減っていない」ということは、文部科学省が言っているように、「裏を返せば、それだけきめ細やかに見ることができ、いじめを見つけることができた」ということが言えると思います。

費用対効果を数字で表すことは難しいですが、「先生がよく話をきいてくれた」だとか「先生が声をかけてくれた」という子どもの声や、授業の中で子どもが活躍する場が増えたという点で、効果はあると考えております。

市長 以前、少人数学級が学力向上の面で成果があるのかどうかについて研究したことがあります。しかし、全く同じ力量の教員が複数人いて、生徒の学力等も全く同じ条件で複数クラスあれば、少人数学級とそうでない学級とで比較することができるのですが、現実にはそれは不可能であるため、やはり数値化することは困難ということで、結論は出ませんでした。ただ、私の主観では、生徒指導や人との関わり、道徳性などの多面的な要素を入れた時には、その効果はきっと大きなものになると確信しております。

教員の多忙化は、いつの時代も言われていることであり、なかなか難しい問題であります。本市で現在策定中の新教育基本計画には、教員の多忙化についても位置づけをしておりますが、大きな柱としての位置づけではありません。教員が一番大切にしなければならないことは、子どもとの関わりをキープすることです。子どもが在校している時は、教員

は全力で子どもと関わるべきです。授業や生徒指導に始まり、子どもと一緒に遊び、支え、生活記録を見ることも一つの関わり方だと思います。教員が忙しいのは、子どもと関わっている時は事務仕事ができないことに原因があります。市役所でも、窓口等での対応が長くなればなるほど事務仕事が多まっていくことになっていきますが、市民の皆さんを第一優先に考えなければならないので、これは仕方ありません。教員にとっても同じく、子どもとの関わりを第一優先に考えなければなりませんので、事務仕事は、子どもがいない時にするしかありません。テストの採点や成績をつけること、あるいは授業の準備や力量向上のための研修、学校経営における様々な会議も必ず必要となります。教員がそれ以外のことをしなくても済むようにするためには、教育委員会としての支援体制をどうするのか、考えていく必要があると思います。少人数学級を導入した場合に、教師が1人の子どもに関わる時間がどれだけ増えたのかをデータとしてしっかりとっていくことが必要であると考えております。

今瀬教育長 教育委員の皆さんは、教員と話し合う場を持ったりする中でも、教員の健康についてとても心配していただいています。平成26年度に行った教育委員県外研修も、教員の多忙化解消についてをテーマとして実施しました。それを受け、「多忙化」というとマイナス志向に感じるのですが、本市では、子どもと向き合う時間の確保のために「校務の適正化」といった委員会を立ち上げ、どうしたら効率よく仕事を進められるのかということの検討を始めております。校務支援システムを運用していますが、まだまだ十分に活用ができていないのが現状であり、システムの効率的な活用についての研究を進めるとともに、各学校で教員により校務の効率化を図った工夫だとか、子どもと向き合う時間を生み出した工夫などについての実践結果を持ち寄り、紹介し合うなどしております。

木戸委員長 現職の教員と話をした時、皆さん大変だと言われるのですが、どうにかしたいという強い気持ちがあまり伝わってこなかったと私は感じました。月に100時間以上時間外勤務をしながらも、それは教員としての使命であるかのような気持ちをお持ちなのではないかとの感触がありました。そうした強い使命感を持っていただくことは悪いことではないのですが、最近よく言われているワークライフバランスを考え、仕事と家庭の両立について、先生方自身もより真剣に考えていっていただきたいと思います。

古田委員 どこか1か所を変えたら、他の問題も連鎖的に解消していくというような形で、少人数学級や他のことについても、全部つながっているのではないかと感じます。

木戸委員長 ある校長先生は、「何か行事等を止めるしかない」ということもおっしゃっておられました。

久野委員長職務代理者 学校独特の職場風土というか、やむを得ない仕事もたくさんあるとは

	<p>と思いますが、まずは、少なくとも月に1回程度は一斉定時退校日を設けて早く帰り、先生方には体のケアをしていただきたいと思います。</p> <p>木戸委員長 先生方の希望は、多忙化を解消するために教員を増やしてほしいのか、それとも多忙化そのものをなんとかして解消してほしいのか、どちらなのでしょう。</p> <p>今瀬教育長 35人学級の導入であるとか、問題を抱えている子どもへの対応のための支援員の増員など、様々な希望がありますが、多忙化解消のための決定的なものはないのが現状です。</p> <p>古田委員 教員の数足りないということでしょうか。</p> <p>今瀬教育長 そういった意見もありますが、全ての教員がそう思っているわけではありません。以前と比べると、子どもや保護者への対応に追われたりと、様々な問題があり、対策は講じてきておりますが、それでもまだまだという意見があります。ただ、先生方の対応も丁寧になってきたことも確かです。</p> <p>木戸委員長 そもそも、みよし市では児童生徒数に対して教員数は確保されているのですか。</p> <p>教育部参事 基準という意味では、当然クリアしております。ただ、発達障害や不登校などの問題が以前に比べて増えてきており、きめ細やかな対応をするためには教員やその補助をする人、または学校の環境を整えてもらえる人などを増員してほしいというのが学校現場の要望であると思います。また、校務支援システムをもっと有効に活用することにより、会議や出張を減らしてほしいという声もあります。</p> <p>先ほど、木戸委員長が言われたとおり、「35人学級は当然いいことだから進めるべき」というイメージで進んでいる部分はあると思います。もう一度ねらいや必要性、その効果等について考えてみることは大切なことだと思います。</p> <p>また、定時退校日については、その日に定時退校すると、往々にして次の日に仕事を持ち越し、結局その分帰りが遅くなることとなります。しかし、先ほど久野委員長職務代理者が言われたように、そうではなくて自分の健康を考えてその日に定時退校するために計画的に仕事をこなしていくという意識が必要となります。私の経験からもと思いますが、教員は目の前の仕事には一生懸命対応するのですが、それがどの程度の効果があって、子どもたちへどのようにフィードバックできるのかなどについて再度考えていく必要があると考えます。</p> <p>我々教育委員会としても、教員の思いに対してできることは行いつつ、ねらいや意味などをしっかり伝えていかなければなりません。そうしないと、いつまでたっても「人が足りない」という話はなくなりません。例えば、35人学級が実施されたらその次は30人学級という声が出てくることになるでしょう。現状として、今の人員が生かしきれてい</p>
--	--

	<p>るかということについても、教育委員会としてもう一度学校現場の教員に対して働き掛けていかなければならないと思います。</p> <p>藤森委員 私の娘が中学校で期末試験を受けたのですが、保健体育の試験問題で、「発達と発育とはどう違うか」という論述問題が出たということでした。私の経験では、採点の手間を考えると、そのような論述問題を出すことは考えられないのですが、今回の保健体育の先生は、その論述問題を採点できる余裕があるということになります。考えるに、みよし市では、中学1年生は35人学級であるため、可能なかと思いましたが。仮に40人学級だったとすると、論述式の問題を出題することは難しいと思います。5人しか変わらないという方もありますが、その違いが、先ほど木戸委員長が言われたアメリカと日本の教育の違いではないかと思えます。40人学級では、やはりどうしても「詰め込む」教育になってしまうのだと思います。みよし市では35人学級の運営はうまくいっていると思いますし、こうしたことから、私は1学級35人というのは実現すべき最低限のラインであると考えます。</p> <p>市長 学校では、管理職は教員に対して早く帰るように指導しており、また、各教員の勤務時間等を把握しながら、健康面等について面接をすることになっております。しかし、教員は昼間は子どもと関わることが第一であるため、事務仕事は夜間になってしまうのが現実です。その日にできなかった事務を次の日にできるかを考えた時、やはり昼間は難しいということが多いため、時間外勤務が増えていってしまうこととなります。女性の教員の場合、子どもが小さいうちなどは特に大変で、家事を行わなくてはならないため、自宅で仕事をしようと校長の許可を得て仕事のデータをUSBメモリ等で持ち出したのはいいが、盗難や紛失等の事故に遭い、その責任問題についての報道をよく目にします。先ほども話に出ましたが、思い切って何か行事等を中止すると、教育効果が大きく低下してしまうので、それはできません。行事の中の一部を見直したり、PTAなどを取り込んで運営面での改善を図っていくことを考えながらやらなければいけません。このことは、学校だけではなく、教育委員会としての課題であると認識しております。</p> <p>私が教育長であった時、他県のある市に研修で伺った際に、その市では30人学級を導入しており、そのために94人の市費任用教員を採用し、年間4億8千万円かかっているということでした。しかし、すぐ隣の別の市では、財政的に非常に厳しいこともあり、同じようにはできないということでした。本市でも、理想はありますが、予算が必要になることですので、教育委員会は何を優先していくのか、市の財政当局とよく協議した中で進めていく必要があります。私は、少人数学級の拡大について、市長選挙の際に申し上げてきましたので、やらなければならないと認識しておりますが、財政面も考えながら導入を図っていきたく</p>
--	--

<p>議 題 2 「教育に関する 大綱について」</p>	<p>久野委員長職務代理者 市 長</p> <p>思います。 現在、士別市との友好交流について、様々な形で実践されていますが、教育委員として訪問したことはほとんどないと聞いております。教育委員会所管の交流事業も多く実施されておりますので、その様子を確認すること等も含め、教育委員4年の任期のうち1回は士別市を訪問できるようにしてはいかがかと思います。</p>
	<p>市 長</p> <p>士別市には小学生が70人近く訪問しています。教育委員全員でなくとも、最低1人は訪問してその様子を把握することは大切であると思っております。</p> <p>また、同様にコロナバスについても中学生を派遣しておりますので、やはり教育委員として1人はその様子を把握すべきであると思っております。</p>
	<p>木戸委員長 政策推進部長</p> <p>教員の多忙化だとか少人数学級など、予算が必要となる話が出てきましたが、みよし市の今後の財政見込みといった面ではどうでしょうか。</p> <p>全国的にはアベノミクス効果で税収等も上がってきておりますが、法人市民税につきましては、今後は2割以上、もしかするとそれ以上国からの吸い上げとなるため、本市の歳入見込みは右肩下がりになると考えております。しかしながら、子どもの教育に関しては重要な施策であると認識しておりますので、今後の歳入の状況を見た中で、教育費だけでなく全体のバランスを考えながら、対応していきたいと考えております。</p>
	<p>市 長</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ご意見も出尽くしたようですので、ただ今の協議においていただきましたご意見等を参考にさせていただき、平成28年度の予算を編成していきたいと思っております。</p>
	<p>市 長</p> <p>続きまして、議題2「教育に関する大綱について」であります。</p> <p>今年5月13日に開催いたしました第1回総合教育会議におきまして、現行の教育基本計画の中の「基本理念」及び「基本方針」を大綱として定めましたが、現在、新しい教育基本計画を策定中であり、今年度中には策定できる見込みです。</p> <p>新しい教育基本計画が策定された暁には、その基本的な部分を新しい「教育に関する大綱」として定めてまいりたい旨を、第1回会議においても申し上げました。</p> <p>そこで、現在策定中の教育基本計画につきまして、その進捗状況と現時点における計画の骨子（案）等についてお示しさせていただくとともに、小中学校や保育園・幼稚園、行政区で行いましたヒアリングでいただきました意見等をまとめたものを資料としてお手元に配布させていただきました。</p>

<p>教育行政課長</p>	<p>このことにつきまして、事務局から説明をお願いします。</p> <p>教育委員会では、昨年度より、教育基本計画策定委員会を発足させ、計画づくりを開始しました。</p> <p>教育は市民が直接かわりをもつ大切なものであり、市民の多くの声を集めながら計画を作ることを大切にしてきました。昨年度は抽出による市民1,000人のほか小学校5年生、中学校2年生とその保護者及び教職員を対象とするアンケート調査を行い、さらに昨年から今年にかけては25の行政区、16の幼稚園・保育園、そして12の小中学校を担当者が回り、1年半の間に500人以上の方から様々な意見を聴取してまいりました。</p> <p>教育に関する市民の声を集めた結果、みよし市の教育にとって大切なのは、古くからの住民も新しい住民も、お年寄りも若者も、障害を持っている人もそうでない人も、みよしに住む全ての人々が「教育を通してつながり合う」ことであるとの結論に達しました。</p> <p>そこで、資料にあるように、基本理念（案）を「学ぶ楽しさで、人と人をつなぐ」としました。</p> <p>この基本理念（案）に沿い、みんなにとってわかりやすいシンプルな計画にすることに努め、全体を「1次代を担う子どもをみんなで育てる」という義務教育までの部分と、「2学び続ける市民を応援する」という義務教育後の生涯学習の部分に大きな柱を設けました。</p> <p>さらに、その根底に、「3『ふるさとみよし』を愛する心を育てる」という第3の柱を設けました。これは、ヒアリングの中で、みよしを形作る歴史や文化といった大切なものが、市民の中で薄れていることに危惧を覚えたからです。これからのみよしを創り、更には世界にはばたく人材を育てるためには、自分の住んでいるまちと、そこに住む人の良さを体験と共に感じる大切であると考えています。地域や学校からも、ぜひ、ふるさとを大切にすることを育ててほしい、という声をたくさんいただいております。</p> <p>この「みんなで子どもを育てる」「生涯学習を応援する」「ふるさとみよしを大切にすることを養う」という3つの柱を具体化するために、資料2枚目にあるような、20の重点施策—20の作戦—を考えました。</p> <p>この重点施策には、今後準備をしていく（仮称）みよし市教育センターでの教師の資質向上や、ICT、外国語学習の充実など新しい教育への対応はもちろん、これから重視されていく、地域と学校との連携、市民の健康な体作りに関する施策など、全ての市民にとって特に重要な施策を選びました。</p> <p>この20の具体的施策については、まだまだ検討中であり、今年度末の完成にいたるまで、各課等で調整をし、精選を図っていくつもりです。20の重点施策以外の施策については、別紙に「系統別全施策」として、</p>
---------------	---

	<p>現時点での施策の全体像も示しましたので、ぜひご覧ください。</p> <p>教育基本計画策定の進捗状況については以上です。</p>
市長	<p>ただいま説明のありましたことについて、教育委員の皆様からのご意見等をいただきたいと思います。挙手のうえ、ご発言をお願いいたします。</p>
古田委員	<p>7番のところにタブレット端末の記述があります。先日、教育委員県外研修として、岡山県備前市を訪問しました。備前市では、小中学生全員にタブレット型端末を貸与されており、お話を伺ったところ、タブレットがあることによってできることも多くあり、もちろんあればあった方が良いのですが、タブレットのソフトはまだそれほど充実していないため使い方が限定されるという印象を受けました。また、みよし市の先生方のお話を伺った印象や、みよし市では電子黒板を有効に活用していることを考えると、タブレット端末を1人1台とすることは時期尚早ではないかと思います。</p>
木戸委員長	<p>市長は、先日コロンバス市を訪問されましたが、現地の教育事情等で何か参考になるようなことはありましたか。</p>
市長	<p>私が訪問した時は、体育館での球技と教室での授業を少し見せていただきました。球技は初めて見る種目で、皆が楽しそうにしていました。教室での授業では、特に変わった様子は感じられませんでした。一つ印象に残っているのは、ある教室を覗いたら、子どもと先生が2人であり、その子どもがこちらに気づいてあいさつに来てくれました。その子は日本人で、2週間前に日本からコロンバスに来て現地校に入校したとのことでした。日本でもそういうことはありますが、教員が手厚く支援していただいていると感じました。時間の制約もあったため、最新の情報機器を使っている様子を見ることはできませんでした。</p>
藤森委員	<p>新教育基本計画(案)の基本理念については、私は非常に素晴らしいと思います。中でも特に③の「ふるさとみよしを愛する」ということが大切であると思います。学校教育の場においても、子どもの時から地域を愛する気持ちを育てるのは非常に大切であり、2ページにある「地域のことを勉強する学習」も非常に良いことだと思います。</p> <p>私は、みよし少年少女合唱団の団長をしておりますが、今年から発表の時は必ず「みよしの風」という歌を歌うようにしており、子どもたちが笑顔で歌ってくれています。このように、これからは様々な場で地域を愛する取り組み・教育が必要になってくると感じております。</p>
古田委員	<p>私は、家庭の教育力向上について考えてみました。学校教育について、児童生徒の親が家庭でももっと関わられるようになったら良いと思います。現在は、子どもの教育は学校に任せきりで、親が子どもに触れ合う機会が少なくなっていると聞きます。例えば、再任用の先生方の授業を親が受けられるようにして、学習のポイントだとか、子どもはどんなと</p>

	<p>ころで躓きやすいのかといったことについて教えていただけると、親が子どもに関する機会も増えるのではないかと思います。</p>
市 長	<p>私の経験では、豊田市では教員のOBが数人、パルクとよたに在籍し、学校が申し込むと、親の会などを対象に、あらかじめ決めたテーマについて話をしてもらえるようになっており、他にも保護司会などからの依頼にも対応したことがあります。</p>
今瀬教育長	<p>みよし市では、現在のところそういった体制はできていませんが、個別対応の授業へのアドバイザーや不登校対応の先生がおみえになります。例えば、市任用のアドバイザーに時間的な余裕があれば、PTAなどからの要請により対応できる可能性はあります。</p>
	<p>様々な事業がありますが、予算が必要なこともあれば、予算がなくてもやり方を工夫すれば可能なこともあります。今年5月をあいさつ強調月間としましたが、これは手作りポスターで啓発を行うなど、費用はゼロで大きな成果をあげることができました。</p>
教育部参事	<p>現在、ハートケア教育サポーターとして退職された校長先生もみえますので、将来的には家庭支援という枠組みの中で、不登校など家庭の中で閉じこもりがちな子どもへの支援もしていきたいという計画を立てております。こうした家庭支援の一環として、ご提案いただいたことについても検討していきたいと考えております。</p>
市 長	<p>古田委員には、非常に良い提案をいただいたと思います。ありがとうございました。</p>
藤森委員	<p>新教育基本計画では、新しくできる図書館の役割は非常に大きく、色々な分野に関わってくるものと思います。市の図書館も大切ですが、一方で学校図書館の果たす役割も非常に大きいものがあり、一般的には小学生や中学生が市の図書館に行って勉強するという事は、距離や時間的な理由で難しいため、調べもの学習などは学校図書館を利用することが多いと思います。そうした時にいつも出てくるのが学校司書の問題であり、みよし市では12校ある小中学校に6人の学校司書が配置され、1人の学校司書が2校を受け持っている状況です。全国的にみても同じような状況ですが、みよし市の場合は、司書が不在の時間は図書館に鍵をかけるか、または保護者に学校図書館ボランティアをお願いしている状況です。今年、私も学校図書館のボランティアをやっております。やってみると、貸し出し業務自体はできるのですが、子どもたちが調べ学習などのために本の場所を探したり、どの本を探せばいいのかなどを尋ねられた時には、ほとんど答えることができなかつたため、やはり保護者によるボランティアでは本来の司書としての役割を果たすことは不可能であると感じました。</p> <p>特に中学校においては、生徒が聞いてくることも高度になってきます。1人の学校司書が2校を掛け持ちするのではなく、1人1校体制に</p>

	<p>していくことが必要だと思いますので、段階的にでもそのようにしていただけないかと思います。</p>
教育部参事	<p>議会でも同様の質問を受けたこともありますし、図書館法の改正もあったので、できるだけ計画的に増員できるように努力していきたいと思っております。</p>
市長	<p>学校には司書教諭もおりますので、もう少しその活用を図ることも必要ではないかと思います。</p>
藤森委員	<p>確かに法律の定めもあり、みよし市では全ての学校に司書教諭が置かれてはいますが、それぞれの司書教諭の先生方は、普通に担任をお持ちであり、非常に忙しいと思います。自分のクラスをおいて図書館に詰めることは難しいのではないのでしょうか。現に、私が学校図書館でボランティアをしている時に司書教諭を見たことは一度もありませんし、それは不可能だと思います。</p>
今瀬教育長	<p>文部科学省は、司書教諭を配置するように指導しています。しかし、生徒指導や進路指導の加配はありますが、司書教諭の加配はありません。国からの調査の中では、司書教諭の授業時間数などに配慮しているかなどの項目はありますが、現実には、教職員の多忙化が叫ばれている中、とてもそのような余裕はありません。指導計画などでは司書教諭は活躍できますが、図書館の中での活躍については、国からの費用的配慮がない現状では難しいと思います。</p>
市長	<p>みよし市の学校図書館は、貸出冊数が全体的に少なく、学校間での差が大きいというデータを見たことがありますが、どうでしょうか。</p>
今瀬教育長	<p>多分、黒笹小学校が一番多いと思います。保護者ボランティアが多く、必ず図書館が開いているので、子どもたちがいつ図書館に行っても本を借りることができるようになっています。1人が年間50冊位は借りていると思います。学校によっては、図書館がいつも開いているわけではないため、自由に借りることができないこともありますので、そういったことを教育委員会が工夫していかなければならないと考えています。</p>
市長	<p>私が以前校長として赴任していた中学校は図書の出しが多い学校であり、赴任した最初の年は5,000冊を超えていましたが、担当者が「翌年は10,000冊にしましょう」と言い、実績もそのとおり10,000冊を超えました。しかし、その次の年は新たに親子読書を取り入れたところ、貸出冊数が元に戻ってしまったということもありました。チェックアクションが分からないままに実施し、どれだけ効果があるかということがなかなか見えなかったことを実感しました。</p> <p>また、その中学校では読み聞かせを行っていました。小学校ではどこでもやっていますが、中学校ではなかなか珍しいのではないかと思います。</p>
今瀬教育長	<p>みよし市では、北中学校と三好丘中学校が小学校からの流れで読み聞</p>

	<p>かせを実施しています。</p> <p>市長 多くの図書を読ませることも大切であり、中学校と市の図書館をどう関わらせるかを考えていかなければなりません。</p> <p>今瀬教育長 団体貸出制度の中で、学校にもまとまった数の図書を貸し出しすることができないか、現在検討しています。また、児童館への貸し出しについても検討していますが、これはなかなか難しいようです。</p> <p>子どもたちだけではなく、大人も含めた市全体で読書量が増えていくことを目指して検討を進めています。</p> <p>木戸委員長 話題が変わりますが、ドイツのメルケル首相が難民を大量に受け入れて、不足する労働力として使いたいと表明されております。日本が今後どうなっていくのか分かりませんが、外国人労働者が増えればその子どもも増えていきます。今後、外国人の教育をどうしていくのかということが大きな課題となります。</p> <p>また、発達障害の子どもが増えているということもよく聞きますが、今後、どのように対応していくのかということも大きな課題であると思います。</p> <p>教育に直接関係はないかもしれませんが、高齢者、特に認知症の予防という面で、介護に至らない高齢者の認知症予防にかかる教育といったことも重要になってきています。</p> <p>日本創生会議では、みよし市と豊田市の西三河北部地域で医療や介護のキャパシティが不足するとの話がされました。これをどうしていくのかについては、モデルがないため、非常に難しいのですが、やり方をよく考えていかなければならないと思います。</p> <p>市長 外国人の子どもについては、今年度から初期指導教室を市内に設置しております。外国人数について、リーマンショック以前は2,000人以上であったものが、現在は1,600人を下回っていると記憶していますが、最近では、景気の回復により外国人は徐々に増加傾向にあります。</p> <p>その子どもが小中学校に就学するわけですが、外国人には就学義務がないため、中には学校に行かない外国人の子どもがいるのも事実です。</p> <p>以前、みよし市ではありませんが、不就学の調査を行ったことがあります。非常に大変な調査でしたが、数人の不就学の子どもがいることが分かりました。ただ、今のところ、みよし市ではそこまでする必要はないのではないかと思います。</p> <p>教育部長 先ほどから話にでていた初期指導教室については、計画(案)の系統別全施策「5個に応じた教育を推進する」の中に「外国人児童生徒への支援」として掲載しております。また、特別支援教育に関しては、福祉に関連することもあれば、県が行うべき事業など、様々な問題がありますが、市の教育基本計画で全てクリアするのは難しいものがあります。今いただきましたご意見等を現在の計画(案)の施策体系の中で対応で</p>
--	---

<p style="text-align: center;">そ の 他</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>	<p>きるように考えていきたいと思ひます。</p> <p>今瀬教育長 この新計画では、現在の計画を刷新して実行性のあるものにしていき たいと思ひております。夢を描くわけではありませんが、将来の子ども たちのために何をしたらよいかということを考えてきました。策定に向 けては、昨年・今年の2年間で市内の全小中学校、保育園・幼稚園、全 行政区を回ってそれぞれ意見等をいただいております。実際に生の声を 聞いてまとめ上げた計画は、他にはなかなかないと思ひております。学 校現場の期待感も大きく感じておりますので、これからさらに検討を重 ね、よりよい計画にしていきたいと思ひます。</p> <p>市長 ご意見も出尽くしたようですので、ただ今の協議においていただきま したご意見等につきまして、新しい「教育に関する大綱」策定の参考に させていただきたいと思ひます。</p> <p>以上で、本日の議事は終了しました。「その他」として、本日の議 題以外で何かご意見等があればお願いいたします。 (意見等なし)</p> <p>市長 以上で、本日の日程は全て終了しました。 その他、事務局から連絡事項等がありますか。</p> <p>企画政策課長 次回、第3回目の総合教育会議につきましては、10月から11月頃 に開催を予定しておりますが、日程等の詳細につきましては、改めてご 案内いたしますので、よろしくお願ひします。</p> <p>市長 以上で、平成27年度第2回みよし市総合教育会議を閉会します。</p> <p>企画政策課長 一同ご起立ください。 【一同 礼】 ありがとうございました。</p>
	<p>(午前11時57分)</p>